

大腸や小腸などに起きる原因不明の難病

炎症性腸疾患の患者急増

近年、大腸や小腸などに起きる難病「炎症性腸疾患」の患者が急増している。患者の交流などに取り組む「姫路炎症性腸疾患患者会」(姫路IBD)によると、姫路市内でも3000人を超える患者がいるという。姫路IBDが、医師による講演会などに力を入れるほか、市内の病院が専門外来を開くなど、地域ぐるみの取り組みが活発化している。

(末永陽子)

姫路でも300人超える

「IBD」は炎症性と、潰瘍性大腸炎は大熱などが起きる。10、腸疾患の総称。潰瘍性腸の粘膜に潰瘍がで、大腸炎とクローン病のき、血便、下痢、腹痛、男性患者が女性患者の二つに大別される。いなどの症状が出る。若約2倍とされる。

いずれも原因不明で、国の指定難病となつている。厚生労働省による発し、下痢、腹痛、発症する。クローン病は小腸や大腸に潰瘍が多。976年度に128人。012年に約3万6千人、75年度に千人以下だった潰瘍性大腸炎は12年に14万を超えた。安倍晋三首相が持病として公表したほか、若手女優も発症を明かし注目が集まっている。



012年に約3万6千人、75年度に千人以下だった潰瘍性大腸炎は12年に14万を超えた。安倍晋三首相が持病として公表したほか、若手女優も発症を明かし注目が集まっている。

姫路中央病院(姫路市飾磨区三宅)は、30年ほど前からIBDの治療に積極的に取り組んできた。2012年

患者交流会や専門外来開設 地域の取り組み活発化

3月にはIBDの専門外来を開設。栄養士も含めた医療チームで対応に当たり、市内外約200人の患者を治療する。同院は「単なる腹痛だと思われ、周囲の誤解を受けやすい。若年での発症も多く、精神的なケアも必要」とし、定期的に交流会などを開いている。

一方、姫路IBDは06年に発足。会員35人、年会費2千円。食事制限もあるため、適切なレシピを紹介する料理教室や講演会を開く。22日午後1時半からは、姫路市安田3の市自治福祉会館で同病院の宗友良憲医師を招いた交流会をもつ。

会長の柳井ときおさん(41)は「医療情報が少ないのが課題。患者同士で励まし合ったり情報を交換する場にした」と話している。

